就職面接で自分と他人を差別化する方法

就職面接でやりがちなのが、例えば大学生であれば、

「私はサークルリーダーで」

「私は完璧主義なのが短所で」と言うようにこれ見よがしに自慢をする事です。

このような事はみんな言っているので、他人との差別化は出来ず、面接官からすれば、たくさん似たような車が並んでいて、どれでも良く、

「取り敢えず一番安い車を選ぼうか～」

と言うような状態です。

あなたがやるべき事は、面接官を人として扱う事です。ただ面接官に聞かれた質問に答えて次の質問に移るなら、面接官はロボットでも良いわけです。

だからこそ、あなたがやるべき事は、面接官と言う人と会話をする事です。

例えば、あなたが志望動機を聞かれて、答えた後に、

「面接官さんがこの会社に入ろうと思った理由は何ですか？」と言うように同じく志望動機を聞いてみる事で、面接官もあなたの事を車ではなく、人として見てくれるようになるはずです。

そして、書類が通り

一次 二次 三次と進んだら、

「どうして再び面接に招待してくれたのですか？」と聞いてみましょう。

その問いの答えは、面接官に対して興味のある事だと言えるでしょう。面接官があなたについて興味のあるテーマを中心に会話を展開すれば、面接官に合わせた、面接官のニーズに答えたプレゼンが出来ると言うわけです。

「君が経験したこの…が良いと思って３次面接まで来てもらった。」

最後に、面接には相手と対等の立場に立ったつもりで挑むのが良いかもしれません。

面接されているのはあなただけではなく、会社とその面接官もあなたに面接されているのです。そう考えたら、同じ目線で会話が出来ませんか？